

# 第 5 編

## 計画策定の背景

## 1 計画の策定経過

平成23年度を初年度とする第7期総合計画後期計画の策定は、平成18年1月に町議会にて議決された基本構想を踏まえ、5年後の町の将来を見据えながら、「総合計画は、行政と住民との協働により、計画を策定し、推進していく」という基本方針に基づき、「町づくり推進協議会」との協働により、策定作業を進めてきました。

町づくり推進協議会は、町長が会長、議長、副町長及び教育長が副会長を務め、町民から選ばれた各委員は6専門部会に所属し、各部会が所管する事項について、計画策定にあたりました。具体的には、前期計画の評価総括作業を行い、前期計画の評価総括を踏まえ、基本計画の見直し及び平成27年度までの5ヶ年の実施計画を策定しました。

前期計画では、基幹産業である農業の基盤整備とともに、産業振興の下支えや生活環境整備の基本となる交通通信網の整備を進めたほか、民間活力を積極的に導入し、定住対策や観光・文化の振興を通じて活性化を図ってきました。

しかし、バブル崩壊後の厳しい経済情勢下において、雇用の場の減少や少子高齢化の進行などにより、人口減少は続いており、地域住民の定着と生活安定、豊かな地域社会の確立には依然課題も多く、今後も人口の自然減が見込まれる状況にあり、地域産業の振興、起業への支援、定住促進対策等、積極的な対策を図る必要があります。

後期計画の策定にあたっては、前期計画の評価総括を踏まえ、地域主権型社会の進展、国や道の施策など、社会情勢の変化への迅速な対応を検討するとともに、クリーンエネルギーや自然環境、食料、教育、歴史など、新得町の地域資源を最大限活用し、地域の自給力を高める取組を検討してきました。さらに、町民意見聴取（パブリックコメント）を行い、住民の要望を取り込みながら、計画の策定を進めてきました。

最終的には、各部会からの案がまとまった段階で、ぽっかぽか心トークによる町民との意見懇談や、町づくり推進協議会と議会常任委員会との意見懇談を経て、第7期総合計画後期計画をつくりあげました。

## 新得町総合計画の策定状況

第1期総合計画（昭和46年度～昭和50年度）

明るく豊かな近代的な高原都市の建設

第2期総合計画（昭和51年度～昭和55年度）

美しい環境豊かな生活を創造するために

第3期総合計画（昭和56年度～昭和60年度）

住み良い活力のあるまちづくりのために

第4期総合計画（昭和61年度～平成2年度）

活力ある豊かな生活と魅力あるまちづくりのために

第5期総合計画（平成3年度～平成7年度）

生きがいと豊かさを享受できる町づくりのために

第6期総合計画（平成8年度～平成17年度）

人が生き 人がやすらぐ 光と大地の町づくり

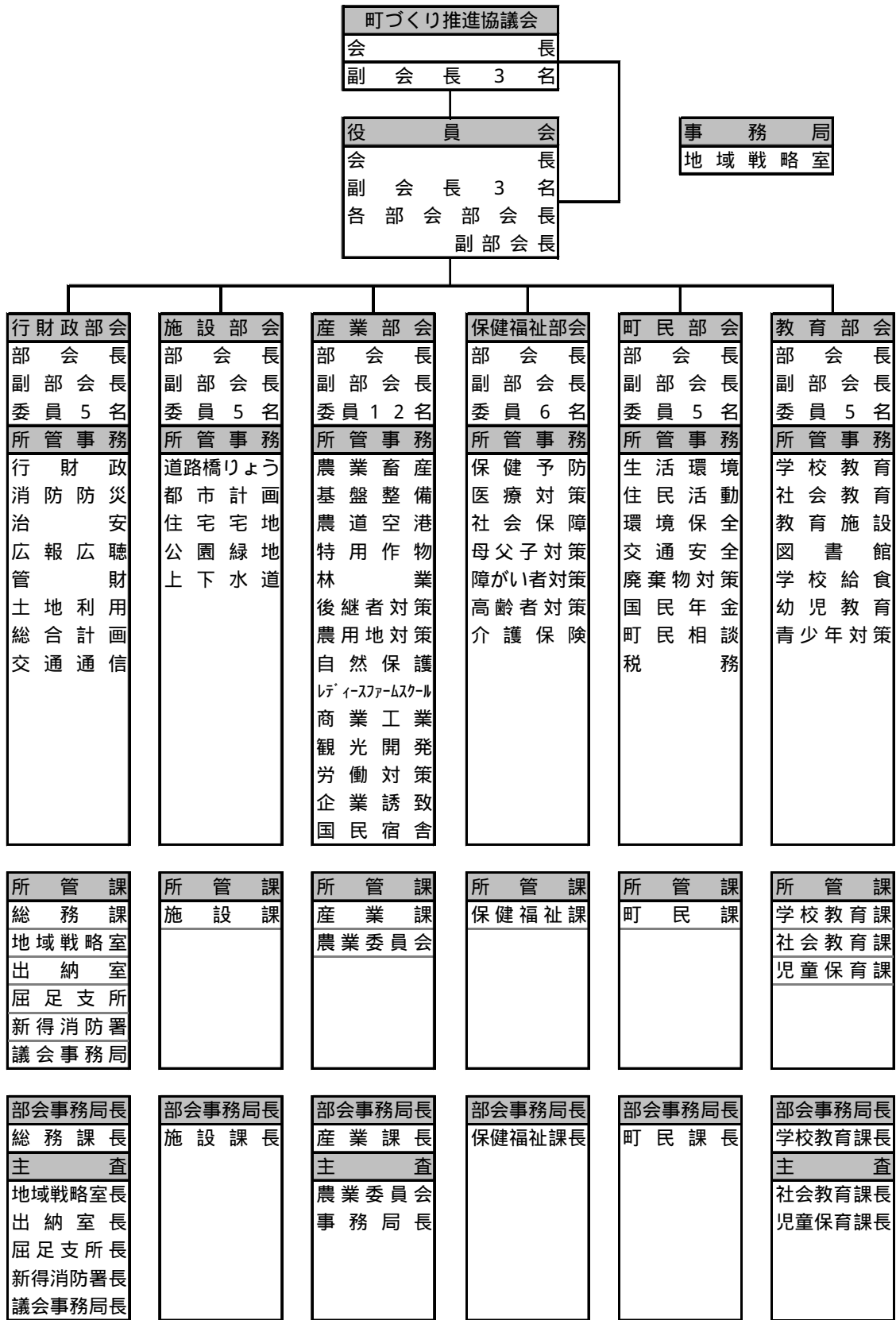
第7期総合計画（平成18年度～平成27年度）

つどい合い ささえ合い そだて合う 自然豊かな町づくり

前期計画（平成18年度～平成22年度）

後期計画（平成23年度～平成27年度）

# 町づくり推進協議会組織図



部会委員構成名簿（ 部会長 副部会長）

行財政部会

区	分	委員名
公的機関の長等	新得郵便局長	杉 本 寛
団体等の長等	帯広信用金庫新得支店長	西 村 輝 美
一 般		堂 端 徹
		田 村 公 司
		江 原 真 女
公 募		深 川 信 雄
議 会	総務厚生常任委員長	柴 田 信 昭

施設部会

区	分	委員名
公的機関の長等	北海道立総合研究機構林業試験場道東支場長	原 秀 穂
一 般		豊 野 昇
		平 田 保
		常 松 敏 昭
	都市計画審議会委員	中 井 由 利 子
		加 藤 元 恵
議 会	議会運営委員長	吉 川 幸 一

産業部会

区	分	委員名
公的機関の長等	新得町農業協同組合参事	武 田 昌 孝
	西十勝森林組合	村 岡 昇
	北海道立総合研究機構畜産試験場研究参事	山 川 政 明
団体等の長等	新得町観光協会副会長	岩 野 光 一
	農村ホリデー研究会	平 かよ子
	新得町農業協同組合青年部長	湯 浅 征 寿
	畑作振興会会長	安 田 和 雄
	新得町農業協同組合女性部長	村 中 順 子
一 般		岡 田 元 成
		及 川 正 明
		安久津 充政
		伊 藤 仁 浩
議 会	産業文教常任委員長	斎 藤 芳 幸
	総務厚生常任委員	齋 藤 美 代 子

保健福祉部会

区	分	委員名
公的機関の長等	十勝総合振興局保健環境部新得地域保健支所長	菅野 克昭
	新得町社会福祉協議会副会長	竹浦 隆
団体等の長等	屈足わかふじ園生活係長	倉科 孝博
一般	民生委員	杉本 鉄男
		清野 祥子
		東 一子
公募	新得町議会議員	青柳 茂行
議会	総務厚生常任副委員長	宗像 一

町民部会

区	分	委員名
団体等の長等	女性ドライバークラブ副部長	太田 泰子
一般		石川 京子
		大井 廣行
		三浦 照幸
	花いっぱい運動推進委員会	寺島 信子
	新得町交通安全指導員会監事	西川 富義
議会	副議長	菊地 康雄

教育部会

区	分	委員名
公的機関の長等	校長会会長	白銀 孝志
	新得高等学校長	井口 郁將
団体等の長等	しんとく女性の会	泉澤 勝代
一般		赤木 英俊
		森田 みづ江
		杉本 理華
議会	産業文教常任委員	藤井 友幸

会議の開催の状況

役員会

役員会
平成 22 年 12 月 27 日

庁内会議

事務局長会議	係長等会議
平成 22 年 6 月 3 日	平成 22 年 6 月 3 日
平成 22 年 11 月 10 日	

各部会

行財政部会	施設部会	産業部会
平成 22 年 7 月 15 日	平成 22 年 7 月 28 日	平成 22 年 8 月 10 日
平成 22 年 9 月 30 日	平成 22 年 9 月 24 日	平成 22 年 9 月 3 日
平成 22 年 11 月 25 日	平成 22 年 11 月 19 日	平成 22 年 11 月 25 日

保健福祉部会	町民部会	教育部会
平成 22 年 7 月 6 日	平成 22 年 7 月 20 日	平成 22 年 7 月 28 日
平成 22 年 10 月 4 日	平成 22 年 9 月 24 日	平成 22 年 9 月 21 日
平成 22 年 12 月 2 日	平成 22 年 11 月 17 日	平成 22 年 11 月 29 日

懇談会等

- ・ ぽっかぽか心トーク  
平成 22 年 11 月 15 日～11 月 19 日（町内 5 会場）
- ・ 町づくり推進協議会委員と議会との意見懇談会  
総務厚生常任委員会 平成 22 年 12 月 13 日  
産業文教常任委員会 平成 22 年 12 月 14 日

## 町民意見公募(パブリックコメント)の状況

意見を募集した計画案

第 7 期総合計画後期計画素案

- ( 1 ) 基本計画
- ( 2 ) 実施計画

計画案の公表日

平成 22 年 10 月 15 日

公表場所

- ・ 役場地域戦略室、屈足支所、保健福祉センターなごみ、子どもセンターなかよし図書館
- ・ 町ホームページ

意見を募集した期間

平成 22 年 10 月 15 日～10 月 29 日

意見の提出者

なし

## 2 新得町の歩み

### (1) 沿革

新得町は明治32年に山形県からの移民14戸によって開拓の楾がおろされ、翌33年、芽室外6カ村戸長役場が設置されてその管轄に属し、同36年、人舞外1カ村戸長役場の発足とともにその管轄下に入りました。

明治40年、落合～釧路間の鉄道開通によって福島、宮崎、埼玉団体及び幕別町からの移住が急増し、新得市街が形成されました。大正6年に機関区、保線区等鉄道の諸施設が置かれ、鉄道の要衝として、また、西部十勝における農林産物の集散地として発展しました。

大正4年、人舞外1カ村から屈足村として分村、同12年には新得村と改称し、昭和8年町制を施行し現在に至っています。

#### 【沿革の概要】

明治 32年4月	山形県人13戸が新得原野に入植
33年7月	芽室外6カ村戸長役場の管轄になる
36年4月	人舞外1カ村戸長役場の管轄になる
大正 4年4月	人舞外1カ村から分村し、屈足村となる
12年4月	1級町村制を施行し、新得村と改称する
昭和 8年5月	町制施行
46年4月	第1期総合計画始動
48年1月	町民憲章制定
51年4月	第2期総合計画始動
56年4月	第3期総合計画始動
61年4月	第4期総合計画始動
平成 元年9月	開基90周年記念式挙
3年4月	第5期総合計画始動
8年4月	第6期総合計画始動
11年9月	開拓100周年記念式典
18年4月	第7期総合計画始動

### (2) 自然的条件

新得町は十勝の最西部に位置し、東西 30.76 km、南北 62.29 km、総面積 1,063.79 平方kmで、東は鹿追町、上士幌町に接し、南は清水町、西は上川管内南富良野町、北は同管内美瑛町、上川町に接しています。北部一帯が総面積の70%を占める大雪山国立公園の国有林で、南部は十勝川流域の屈足地域、佐幌川流域の新得地域、その中間台地の上佐幌地域の3地帯に分かれており、それぞれ農耕地帯となっています。

気候は北部の大雪山系や西南部の日高山脈の影響を受け、寒暖差の激しい内陸的気候の特徴を有しており、また、特別豪雪地帯の指定を受けています。年間平均気温は約7℃、年間降水量はおよそ1,100 mm～1,300 mmで推移しています。

### (3) 社会条件

#### - 人口等の動向 -

国勢調査の結果によると、昭和35年に13,651人であった人口が平成17年には7,243人となり、45年間に6,408人(46.9%)の大幅な減少を示しており、平成22年3月31日現在の住民登録人口は、6,685人となっています。



人口減少の要因は、国鉄の分割民営化や営林署の統廃合による労働者や家族の減少が大きく、それらに関連する工業人口の減少、離農による農業人口の減少、十勝ダム・佐幌ダム等の大型公共事業の終了、若年層の町外流出、少子化などが影響しています。

産業別就業人口の推移をみると、昭和35年と平成17年との対比において、第一次産業ではその比率を57.2%から18.7%へと大きく低下させているのに対し、第二次及び第三次産業では、それぞれ13.7%から15.2%へ、29.1%から65.4%へと高めています。

本町の第一次産業は、平成17年で農業590人、林業74人であり、ともに減少が続いており、若年労働者の流出による高齢化がみられます。

第二次産業は、建設業311人、製造業224人ですが、製造業は林業等の影響により減少し、建設業はダム建設、発電所建設等大規模建設工事の有無で大きな変動はあるものの、現在は公共事業の減少に伴い、就業人口も減少傾向にあります。

第三次産業は、官公庁とJR関係者、小売業、飲食店関係、及びサービス業で占められていますが、この間の国鉄分割民営化等により、運輸通信業の減少が目立ち、反面サービス業の伸びが目立っています。

#### - 社会的条件 -

町内の市街地としては、行政の中心地として役場本庁が所在する新得市街と、古くから木材集散地として発展してきた屈足市街の2カ所であり、主要道道で連絡されています。

新得市街には役場本庁のほか、西部十勝3町を管轄する新得警察署、十勝総合振興局保健環境部新得地域保健支所が所在、JR新得駅を中心に商店等が集積し、本町の中核的市街地を形成しています。

屈足市街には役場支所が置かれ、道道忠別清水線を中心に市街地が形成されています。大雪山国立公園と広大な国有林を背景に、木材の集散、加工事業により発展し、現在4カ所の木工場が操業しています。過疎地域集落再編整備事業により団地形成がされたほか、地域拠点施設として身体障害者療護施設と介護予防拠点施設が整備されています。ほかに農村集落が数カ所所在しており、町道等で連絡されています。

#### - 経済的条件 -

本町の基幹産業である農業は、山麓特有の冷涼な自然条件を生かした畑作、酪農、肉用牛飼養の大規模経営が展開されています。

また、工業では、木材関連産業が本町の工業生産出荷額（平成20年12月工業統計）の50.6%を占めており、コンクリート製品製造業や食料品製造（乾麺、漬物）などが主たる事業として操業されています。

商業においては、新得、屈足両市街地の中心部に小売店、飲食店が集積し、日用品を中心に商業活動が展開されています。

観光においては、町の北部に大雪山国立公園の東大雪を擁し、トムラウシ温泉周辺の原始的秘境が全国的に知られており、特に夏期においては日本百名山の一つであるトムラウシ山の登山基地として利用されているほか、自然を求めて都会から訪れる人々の人気スポットとなっています。また、ルート上には十勝ダム、屈足ダムなどの景勝地やくったり温泉もあり、今後の入り込みが期待されます。

国道38号線狩勝峠周辺では、サホロスキー場を中心とした狩勝高原周辺がリゾート地を形成しており、地中海クラブバカンス村やサホロリゾートホテル、スキー場、ゴルフ場、ベアマウンテンなど様々な施設が整備され、国際的な長期滞在型リゾート地として事業が展開されています。

## (資料)

## 人口の推移(国勢調査)

区 分	昭和 35 年		昭和 40 年		昭和 45 年		昭和 50 年	
	実数		実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率
総 数	人 13,651		人 13,780	% 0.9	人 11,089	% 19.5	人 11,537	% 4.0
0 歳 ~ 14 歳	4,779		3,862	19.2	2,931	24.1	2,511	14.3
15 歳 ~ 64 歳	8,294		9,321	12.4	7,525	19.3	8,262	9.8
うち 15 歳 ~ 29 歳(a)	3,637		3,669	0.9	2,553	30.4	2,322	9.0
65 歳以上(b)	578		597	3.3	633	6.0	764	20.7
(a)/総数 若年者比率	% 26.6		% 26.6	-	% 23.0	-	% 20.1	-
(b)/総数 高齢者比率	% 4.2		% 4.3	-	% 5.7	-	% 6.6	-

区 分	昭和 55 年		昭和 60 年		平成 2 年	
	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率
総 数	人 9,502	% 17.6	人 9,008	% 5.2	人 8,412	% 6.6
0 歳 ~ 14 歳	2,055	18.2	1,786	13.1	1,437	19.5
15 歳 ~ 64 歳	6,556	20.6	6,125	6.6	5,674	7.4
うち 15 歳 ~ 29 歳(a)	1,645	29.2	1,404	14.7	1,351	3.8
65 歳以上(b)	891	16.6	1,097	23.1	1,301	18.6
(a)/総数 若年者比率	% 17.3	-	% 15.6	-	% 16.1	-
(b)/総数 高齢者比率	% 9.4	-	% 12.2	-	% 15.5	-

区 分	平成 7 年		平成 12 年		平成 17 年	
	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率
総 数	人 7,822	% 7.0	人 7,657	% 2.1	人 7,243	% 5.4
0 歳 ~ 14 歳	1,169	18.6	966	17.4	848	12.2
15 歳 ~ 64 歳	5,071	10.6	4,851	4.3	4,355	10.2
うち 15 歳 ~ 29 歳(a)	1,144	15.3	1,143	0.1	861	24.7
65 歳以上(b)	1,582	21.6	1,840	16.3	2,040	10.9
(a)/総数 若年者比率	% 14.6	-	% 15.6	-	% 11.9	-
(b)/総数 高齢者比率	% 20.2	-	% 24.0	-	% 28.2	-

就業人口の推移（国勢調査）

区 分	昭和 35 年		昭和 40 年		昭和 45 年		昭和 50 年	
	実数		実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率
総数	人 6,466		人 7,155	% 10.7	人 5,729	% 19.9	人 6,385	% 11.5
第一次産業 就業人口比率	% 57.2		% 37.7	-	% 39.0	-	% 27.4	-
第二次産業 就業人口比率	% 13.7		% 31.2	-	% 20.3	-	% 35.1	-
第三次産業 就業人口比率	% 29.1		% 31.1	-	% 40.7	-	% 37.4	-

分類不能の産業含む

区 分	昭和 55 年		昭和 60 年		平成 2 年	
	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率
総数	人 5,015	% 21.5	人 4,802	% 4.2	人 4,621	% 3.8
第一次産業 就業人口比率	% 26.2	-	% 26.7	-	% 22.2	-
第二次産業 就業人口比率	% 27.6	-	% 24.9	-	% 22.3	-
第三次産業 就業人口比率	% 46.2	-	% 48.4	-	% 55.4	-

分類不能の産業含む

区 分	平成 7 年		平成 12 年		平成 17 年	
	実数	増減率	実数	増減率	実数	増減率
総数	人 4,384	% 5.1	人 4,101	% 5.1	人 3,564	% 13.1
第一次産業 就業人口比率	% 21.1	-	% 17.8	-	% 18.7	-
第二次産業 就業人口比率	% 21.4	-	% 21.0	-	% 15.2	-
第三次産業 就業人口比率	% 57.4	-	% 61.2	-	% 65.4	-

分類不能の産業含む

産業別事業所の推移（事業所企業統計調査）～事業所数

区 分	平成 3 年		平成 8 年			平成 13 年			平成 18 年		
	事業所数	構成比	事業所数	構成比	増減率	事業所数	構成比	増減率	事業所数	構成比	増減率
第一次産業	30	6.5	29	6.5	3.3	27	6.6	6.9	33	8.3	22.2
第二次産業	72	15.5	69	15.6	4.2	62	15.1	10.1	52	13.0	16.1
第三次産業	363	78.1	345	77.9	5.0	321	78.3	7.0	314	78.7	2.2
計	465	100.0	443	100.0	4.7	410	100.0	7.4	399	100.0	2.7

産業別事業所の推移（事業所企業統計調査）～従業員数

区分	平成3年		平成8年			平成13年			平成18年		
	従業員数	構成比	従業員数	構成比	増減率	従業員数	構成比	増減率	従業員数	構成比	増減率
第一次産業	345	8.5	402	10.7	16.5	301	8.3	25.1	368	11.7	22.3
第二次産業	888	21.9	793	21.2	10.7	776	21.5	2.1	492	15.7	36.6
第三次産業	2,828	69.6	2,545	68.0	10.0	2,534	70.2	0.4	2,272	72.5	10.3
計	4,061	100.0	3,740	100.0	7.9	3,611	100.0	3.4	3,132	100.0	13.3

中学校卒業後の進路状況（学校基本調査）

区分	平成20年3月卒業				平成21年3月卒業				平成22年3月卒業			
	男	女	計	構成比	男	女	計	構成比	男	女	計	構成比
卒業者数	35	38	73	100.0	27	25	52	100.0	26	27	53	100.0
高校進学	32	37	69	94.5	26	25	51	98.1	26	27	53	100.0
各種学校ほか	2	1	3	4.1	1	0	1	1.9	0	0	0	-
就職者	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	-
無業者	1	0	1	1.4	0	0	0	-	0	0	0	-

新得高等学校卒業後の進路状況

区分	平成20年3月卒業				平成21年3月卒業				平成22年3月卒業				
	男	女	計	構成比	男	女	計	構成比	男	女	計	構成比	
卒業者	18	11	29	100.0	16	16	32	100.0	27	12	39	100.0	
進学	8	5	13	44.8	3	5	8	25.0	12	2	14	35.9	
家事その他	1	1	2	6.9	4	3	7	21.9	2	2	4	10.3	
就職者	9	5	14	48.3	9	8	17	53.1	13	8	21	53.8	
就職先 内訳	町内	5	0	5	35.7	3	6	9	52.9	6	6	12	57.1
	町外	4	5	9	64.3	6	2	8	47.1	7	2	9	42.9

人口の動態

区分		昭和60年	平成元年	平成6年	平成11年	平成16年	平成21年	
自然 動態	出生(A)	96	66	64	53	60	46	
	死亡(B)	61	71	72	78	66	88	
	増減(A-B)(C)	35	5	8	25	6	42	
社会 動態	転入	道内(D)	525	436	362	339	275	248
		道外(E)	52	70	61	90	72	68
		総数(F)	577	506	423	429	347	316
	転出	道内(G)	553	441	440	370	338	281
		道外(H)	222	191	98	62	66	52
		総数(I)	775	632	538	432	404	333
増減(F-I)(J)	198	126	115	3	57	17		
増減(C+J)	163	131	123	28	63	59		
12 月末	人口	8,991	8,385	7,982	7,510	7,364	6,808	
	世帯数	3,191	3,131	3,259	3,291	3,404	3,392	

町内会一覧(平成22年3月31日現在)

名称	戸数	人口	名称	戸数	人口	名称	戸数	人口
末 広	49	62	7 区	21	55	北 友	25	50
永 交	34	69	8 区	8	19	北 星	47	92
同 和	25	53	畜 試	50	101	新 友	53	114
常 盤	32	66	9 区	44	92	屈足常盤	26	48
南 進	34	79	1 0 区	40	78	新 緑	8	17
東 進	98	130	1 1 区	8	17	第1新進	22	38
公 嘗	31	48	北新得区	53	113	第2新進	21	37
東 泉	31	58	北新得団地	12	24	屈足東進	35	80
平 和	22	49	新得農村計	236	499	東 和	16	39
共 栄	37	76	上サホ口	41	97	日 の 出	55	68
新 栄	37	79	2 1 区	15	39	屈足親和	18	35
中 和	18	39	2 2 区	16	41	朝日の2	36	83
更生の1	15	26	八 栄 区	11	28	朝日の1	40	66
更生の2	25	62	2 3 区	20	42	誠	24	48
昭 和	29	78	2 4 区	15	59	鉄 南	28	49
友 愛	25	40	か え で	34	63	さわやか	71	158
親 交	17	37	上佐幌計	152	369	第1北進	68	122
北 進	22	47	2 5 区	9	18	第2北進	33	51
交 睦	24	46	2 7 区	16	38	緑 栄	22	53
親 和	27	58	千代富区	6	14	緑	38	113
双 互	27	54	新 生 区	3	7	屈足市街計	686	1,361
北 栄	47	67	若 葉	10	15	9 3 町内会	3,350	6,685
一心の1	25	62	2 9 区	10	29			
神 社 町	27	51	3 0 区	5	8			
新生の1	51	109	3 1 区	9	28			
新生の2	110	211	3 2 区	16	44			
西 栄	160	292	3 3 区	6	7			
新 進	209	282	3 4 区	11	25			
高 校	10	21	3 5 区	11	32			
あけぼの	70	136	3 6 区	15	43			
春 陽	62	97	3 7 区	12	22			
ひ ば り	62	113	3 8 区	10	22			
広 和	18	41	トムラウシ	38	79			
一心の2	38	79	屈足農村計	187	431			
春 光	23	40						
若 草	105	200						
つつじヶ丘	79	166						
ひまわり	52	107						
さくら	70	178						
栄 町	91	231						
西 和	54	124						
しらかば	67	162						
新得市街計	2,089	4,025						